様式3

学 校 番 号

50

令和5年度　学校評価書　（計画段階）

福岡県立早良高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画（4月）

学校運営方針	教育基本法、福岡県教育大綱及び福岡県教育施策実施計画を踏まえ、社会的自立の基盤となる学力、体力、豊かな心を培うとともに、社会を支え、地域に貢献する力を育成する。		評　価（総　合）
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
昨年度は、授業改善研修の実施、Formsを活用したアンケートの集計や動画をアップする方法の研修、Teamsを利用した授業参観週間での意見交換、公開授業など多くの取組により職員のスキルアップを図ることができた。また、進学セミナーの実施形態に改善を行ったことで効率的に学習に取り組める体制が整った。さらに、3年目となった資格取得セミナーの実施効果も見えてきた。 コロナ禍が終息に向かいつつあり、学校行事や地域貢献実習、ボランティア活動が徐々に行えるようになり、「生徒たちが幸せな社会人として生きていける力をつける」ための取組が再び動き始めた。本年度は、昨年度に増して以下の内容を推進していきたい。 ・学校満足度調査や授業アンケートを指標とし、教育活動の検証を行い、改善充実を図る。 ・ICT機器や協働学習を取り入れた授業改善を推進し、生徒の学ぶ意欲と学力の向上を図る。 ・社会性の基礎となる、挨拶の励行、規則遵守、清掃の徹底等を積極的に推進し、生徒の自己指導能力の育成を図る。 ・地域との連携を強化し、ボランティア活動等の地域活動を活性化させる。	（1）人権教育と心の教育を推進し、いじめ、差別、暴力を絶対に許さない安心安全な学校づくりに努める。 （2）時間の厳守、規則やマナーの遵守、挨拶励行、清掃の徹底を行い、生徒の自己指導能力を育成する。 （3）ユニバーサルデザイン、アクティブラーニング、ICTの活用等による授業改善、観点別評価の効果的な活用等により、生徒の学ぶ意欲と学力を向上させる。 （4）目標を明確にした多彩なセミナーを実施し、チャレンジ精神を育み、自信をつけさせる。 （5）「早良リンクス」の充実に注力し、定期的にその成果を検証する。 （6）振り返りの場を多く設定し、具体性に富むポートフォリオを積み重ね、進路実現を図る。 （7）部活動、生徒会活動、学校行事、地域行事等への積極的な参加を促し、周りと協働する体験を積み重ねることで、課題解決能力を高める。 （8）学習はもとより、様々な教育活動において、実現可能な目標を明示し、達成感の積み重ねをとおして、自己肯定感を高める。 （9）SC等の外部専門家を活用し、個々の生徒の指導と支援の充実を図る。 （10）進路実現100%を目標に、生徒の個別指導を充実させる。 （11）成年年齢の引き下げに伴い、政治参加の重要性や契約、消費者保護の仕組み等の教育を充実させる。 （12）競技力向上、スポーツ・地域貢献活動実習等の充実により、スポーツコミュニケーションコースの魅力を高める。 （13）特進プロジェクトを中心に、大学等への進学を充実させる。	・学校満足度調査を指標とし、教育活動の検証を行い改善充実を図る。 ・ICTを一層活用した授業改善を推進し、授業アンケートの評価を用いて検証する。 ・オイスカ西日本研修センターを含めたボランティア活動を充実させ地域活動を活性化させる。	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務部	生徒の学ぶ意欲と学力の向上（授業アンケート満足度90%（「4はい」と「3どちらかといえばはい」の合計）	アクティブラーニングや学び直しに加え、ChromebookやGoogleアプリ、スタディサプリ等によるオンライン学習やアンケート、ペアワークやグループワーク、小テスト等の活用による更なる授業改善を推進する。				
	生徒との教育活動の時間を増やすための業務の見直しやICT化の推進	業務分担の均等化や、校務支援システム、Classroom、Teamsによる業務（成績処理、行事の反省集約や連絡、アンケート等）の効率化を図る。				
	令和6年度志願者数の増加（志願倍率1.00倍）	早良フェスタについては、大好評の授業体験に部活動体験やスポコミ体験などを追加することで更なる充実を図り、参加者の入試志願率60%以上を目指す。また、活性化推進室を中心に、パンフレットやチラシ、ホームページなど広報に関する戦略的な取組を実施することで目標達成を目指す。				
生徒部 指導課 保健課 支援課	挨拶及び正しい言葉遣いの励行 身だしなみの指導の徹底	登下校時も含め学校生活全般で、生徒が自主的に挨拶が出来るよう教員側から積極的に声掛けを行っていく。また、TPOに合わせた言葉遣いを意識させ、間違っている場合にはその場で指導を行い、改善を図る。				
		身だしなみチェック項目を活用し教員の生徒への指導を統一化する。また、統一HRや集会時に生徒が自身の身だしなみを振り返る機会を設け、意識改善を図る。				
	校内美化の推進 心身の健康管理能力の育成	通常清掃に加え、月1回の「ボランティア美化活動」を実施することで、校内美化を促進するとともに、生徒の環境美化の意識を向上させる。				
		健康診断やアンケートなどを通して、自身の心身の健康に関心を持たせ、生徒自らが健康な生活を送れるよう自己管理能力を育成していく。				
	いじめ問題の未然防止及び早期発見と適切な対応 支援を必要とする生徒への組織的な対応	月1回の各アンケートや面談などを活用し、いじめ問題に早急に組織的に対応できる体制を整える。また、必要に応じてSCやSSWなどの面談を実施する。				
		支援課の研修や部会、学年会などを通して、生徒情報を全職員で共有できる体制を整える。特に学習面で支援を必要とする場合は、教務部や特別支援教育支援員と連携し、組織的かつ継続的に適切な対応を講じていく。				

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

進路部	スタディサプリの運営を軌道に乗せ、より効果的な探究学習の実践と生徒の学力向上を目指す。	1，2年生の「総合的な探究の時間」においてスタディサプリの探究講座を実施する。また、教務部と連携を図り早良リンクスの時間等にスタディサプリの講義動画を活用し生徒の学び直しをより効果的に行う。						
	資格取得セミナーの受講者、及び各種検定合格者を増やす。	学年、クラス、教科と連携し、資格取得セミナーを受講する意義や効果を生徒に伝達する。資格取得セミナーの受講者を増やすことにより、セミナーを活性化させ合格者増へつなげる。						
	地域連携活動を充実させ、より効果的な「早良みらいプログラム」の企画・運営を行う。	オイスカ西日本研修センターを始めとした地元施設・企業との連携を深め、生徒の課題発見能力の向上につながるプログラムを実施する。						
1学年	社会人としての自覚を促し、自立の意識が持てるようにする。	挨拶、礼儀、言葉遣い、時間厳守の指導を徹底する。行動の基準を社会人として生徒への指導・対応を行う。集団の指導と個に応じた指導の両立。						
	生徒、保護者との信頼関係構築に努める。	生徒・保護者・教員が感じる生徒の困り感について、支援課を中心とするSC・SSW・特別支援教育支援員と連携をとり、個に応じた対応について共有する。						
	「わかる授業」と進路関連行事により学習意欲と進路意識の向上に繋げる。	SLを中心に「わかる授業」を体感させ、アンケートの「授業が楽しい」傾向を80％以上にする。様々な進路行事や、スタディサプリを活用して生徒の職業観を養い探究心を深める。						
2学年	学校や教員との信頼関係を良好にして、学校生活のすべてに前向きな生徒を増やす。	1日あたりの欠席者を3.5人に、遅刻者を7.0人に減らす。						
		学校満足度調査において、総合評価の満足傾向を90％以上にする。						
		善行表彰を2000件認める。						
	「わかる授業」に努め、生徒が意欲的に参加できる授業をする。	授業アンケートの「授業が分かりやすい」傾向を90％以上にす						
		早良リンクスの効果を高めて、授業アンケートの「将来の役に立つと思う」傾向を85％以上にする。						
		1人1台端末を活用して、能動的な授業を組み立てる。						
	学外に出る行事において主体的に考え、情報を収集できるようにし、進路選択につなげる。	総合的な探究の時間と学校行事をリンクさせて横断的に活用する。						
		修学旅行委員や体育祭実行委員を立てて主体性を育む。						
		ボランティア参加者を150名以上とし、社会性を向上させる。						
3学年	学校満足度調査において、全体の満足傾向の平均値が95％以上（昨年度2学年は96．7％）を維持する。	教室整美を再度徹底し、落ち着いた学習環境をつくる。						
		教育相談を活用し、学年団での情報共有体制を継続する。						
		文化祭・体育祭の前後で早良リンクスを活用して雰囲気を高め、学校への帰属意識の高揚につながるような取り組みをHR等の時間で実施する。						
	学年全体で進路指導を行い、学校満足度調査の「進路指導」の項目において、満足傾向90％（昨年度2学年）以上を目指す。	1学期始めの二者面談で進路希望を確定させ、その後の変化についても逐一学年団で情報を共有する。						
		就職希望生徒に職場見学を促す。						
		不合格だった場合の行動を全生徒に確認し、その情報も学年団で共有する。						
	公募制推薦や一般入試を利用して中堅大学（福岡大学）以上の大学に合格できる生徒を3名以上輩出する。	放課後・土曜セミナーを早期より実施する。						
		2年次より実施している個別指導体制を強化し、担当者や特進クラス担任との連絡を密に行う。						
スポーツコミュニケーションコース	本コースの志願倍率1.0倍を目指す。	中学校訪問を、5～6月、10～11月の2期に分けて実施する。						
		各強化指定部活動ごとに、中学生向けのスポーツ教室や訪問指導を実施する。						
	本コースの特色ある活動を通して、地域に愛される集団を育成する。	多様な実習等を実施し、本コースの特色をより魅力的なものにする。						
		小学校での体力テスト補助やオイスカ西日本研修センターでの地域貢献実習を通して、地域に愛される人材を育成する。						
	外部機関との連携を強化し、生徒の進路意識を向上させる。	1・2年生の早期から上級学校訪問や出前指導を実施する。						
		アダプティッドスポーツ実習を上級学校との協力体制で実施し、より効果的な実習とする。						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

評価項目以外のものに関する意見